時事新報

東京　明治十七年七月十九日　土曜日　第七百十五號　日曜日休刊　定價金三錢

敍任

○明治十七年七月十七日

依勳功特授伯爵　正四位勳一等　副島種臣

仝　仝　仝　伊地知正治

仝　仝　勳二等　吉井友實

依勳功特授子爵　從四位勳二等　土方久元

仝　仝　勳三等　品川彌二郎

○明治十七年七月十七日

任日枝神社宮司　正三位子爵　吉田良義

時事新報

娼妓ノ增減ハ道德ノ進退ニ關セズ

公然色ヲ衒ヒ醜然耻ヂサル者固ヨリ德義ニ悖ルノ業ニシテ之ヲ買フ者其數益多ク華街ノ繁榮益其盛ヲ極ムルハ亦固ヨリ道德上進ノ兆ニアラザルナリ然レバ娼妓ノ數大ニ減シ華街ノ景況衰頽ニ及ブモ未ダ之ヲ以テ道德ノ進歩ヲ表スルニ足ラズ蓋シ色情ハ人間ノ大慾ニシテ止メントスルモ止ム可ラズ陽ニ之ヲ制スレバ陰ニ其勢ヲ助長シ左ニ抑フレハ却テ右ニ大ニ揚リ其間敢テ大差ナキモノトス西洋諸國ニ於テモ廢娼論ヲ唱フル者アリテ現ニ公然ノ賣淫ヲ業トスル所ナキニ非スト雖モ之ヲ其禁止セザル所ニ比シテ弊害ノ多少如何ハ輒ク之ヲ判スル丁能ハザル程ナリ我邦ニテモ維新ノ後一時廢娼ノ議論起リタル丁アルモ遂ニ實行セラレズ賤業醜態連綿今日ニ至リ世間ニテモ隨分之ヲ憂慮シ彼輩ヲシテ速カニ正業ニ就カシメ一人ニテモ其數ヲ減スル丁ヲ勉ムル者ナキニアラズ而シテ其數ノ減少スルハ道德進歩ノ兆ナリトシテ之ヲ喜ブ者モアラント雖ドモ是レ恐クハ謬見タルヲ免レザル可シ元來社會ノ事物ハ斯ノ如ク單純簡略ナルモノニアラズシテ假令廢娼論ヲシテ實行セシムルモ暗賣私通ノ奇計ヲ設ケ弊害百出殆ト計ル可ラサルモノアラン左レバ娼妓ノ增減ハ人間品行ノ良否ニ關スルモノニ非スト謂フモ亦不可ナキガ如シ

頃日明治元年以來東京府下貸坐敷幷娼妓ノ數ヲ聞クニ近年頗ル減退ノ景況ヲ見ルコトアリ今左ニ明治元年及ヒ同四年(娼妓解放ノ令ヲ發シタル年)ト本年六月ノ現員ヲ掲ク

地名	戸數・人員	元年十二月	四年十二月	十七年六月
吉原	戸	三四九	七一七	八六
	人	三八四四	二八〇四	一二一二
新宿	戸	一五一	九二	六〇
	人	九七二	五八四	三〇四
品川	戸	一七五	一〇三	六二
	人	一四二五	九二三	五八二
千住	戸	一九六	九三	四九
	人	一三〇七	九三一	三六八
板橋	戸	五五	三一	一六
	人	四九八	一八九	九五
根津	戸	一	一	九五
	人	一	一	八一二
合計	戸	九二六	一〇三六	三六九
	人	八〇四六	五四三一	三三七三

右表ニ依レハ明治元年十二月ノ現在數ハ(根津ヲ加ヘズ)貸坐敷九百廿六軒、娼妓八千四十六人ニシテ同四年十二月ハ貸坐敷千〇三十六軒、娼妓五千四百三十一人ナリ則チ貸坐敷百十二軒ヲ增シ娼妓二千六百十五人ヲ減シタリ此年ハ娼妓解放ノ令ヲ發シタル年ニシテ花街ノ一大改革トシ娼妓ハ多年ノ禁錮忽チ解ケ巨額ノ負債一朝ニ消エテ自由ノ身トナリ貸坐敷即チ抱主ハ非常ノ損耗ヲ來シ破産シタル者亦少カラザリシト云フ是レ其娼妓ノ減シタルハ解放ニ依テ或ハ父母ノ許ニ歸リ或ハ情夫ニ從ヒ貸坐敷ノ增シタルハ戸數ノ制限廢レテ新ニ開業スル小店アリタルニ由ルモノナラン、爾後十年ヲ經テ明治十四年ニハ貸坐敷四百四十四軒、娼妓三千十一人ナリシガ(前表ニ掲ケズ)今明治十七年六月ニハ貸坐敷三百六十九軒、娼妓三千三百七十三人(根津ヲ加ヘ)之ヲ明治十四年ノ數ニ比スレバ稍增シタルモ其娼妓ノ數著シク減シタル解放ノ時ニ比較スレバ凡三割七分九厘ノ減ニシテ之ヲ明治ノ初年ニ比スレバ五割八分ノ減少ナリトス

此表ヲ見テ讀者ハ如何ニ判定ヲ下スベキヤコレヲ道德ノ上進ニ歸ス可キ乎將タ不景氣ノ影響トナスベキ乎我輩ハ其原因決シテ以上二者ニアラザル可シト信スルナリ何トナレバ則チ社會ノ道德ハ僅々十餘年間ニ斯ク上進スルモノニアラズ而シテ農商一般最モ好景氣ト稱シタル十三四年ノ頃ニモ其數ヲ增スコトナク今日却テ多數ヲ占メタル程ナレバナリ左レバ我輩ハ娼妓減少ノ原因ハ左ノ二項ニアル可シト信スルナリ

第一　勤番者ノ減少　德川氏ノ時代ハ勿論明治初年廢藩以前ニアリテハ各藩ノ士民所謂勤番ナル者多ク府下ニ來集シ藩邸又ハ客舍ニ寄寓シ隨テ其從僕即チ折助ノ類亦少カラズ此等ハ皆其妻孥ヲ携ヘズ自宅ヲ有セズ羈旅ノ身ナルヲ以テ永ク孤枕冷衾ニ堪ル丁能ハズ去テ花街ニ赴キ強テ一夕ノ春ヲ買フ亦人情ノ已ム可ラザルモノナリ爾後藩邸ヲ撤シテ各故國ニ歸リ其東京ニ永住スル者ハ故鄕ノ妻子ヲ迎ヘ或ハ新ニ妻妾ヲ聘シテ家居ヲ營ムコト、ナリ此際ニハ故鄕ノ舊妻ヲ逐ヒ東京ノ新妾ヲ以テ位ヲ換ヘ隨分醜態ヲ顯ハシ德義ヲ缺キタルモノアレトモ兎ニ角花街ノ遊ハ自カラ減シタルモノトス

第二　密賣淫ノ流行　明治八七年ノ頃ヨリ府下處々ニ密賣淫流行シテ到ル處殆ト其巢窟アラザルハナク其箇數ト廉價トハ一層人心ヲ惹キ易ク一時ハ殆ト貸坐街ノ各番ニ於テ公然行人ノ袖ヲ援ノニ至ル[?]ノ斷行ニヨリテ殆ト其蹤ヲ絶ナタルガ如クナルモ[?]フニ公然袖ヲ援クノ風ハ止ミタルモ只是レ密賣ノ本色ニ復シ其事實々ニ行ハレ未ダ全ク其巢窟ヲ剿滅スルニ至ラザルベシ往時府下密賣淫ノ沙汰ナキニアラザルモ處分頗ル嚴ニシテ探偵尤モ密ニ殊ニ直接ノ利害ニ關ナル貸坐敷仲間ヲシテ搜索セシメタル丁アリ其精微一網ヲ洩サズ全都ノ人ヲ擧テ網羅ニ入ランメタリト雖ヒ今日ハ然ラズ是レ其娼妓ノ數ヲ今日ニ減シタル由縁ナリトス

以上ニ論シタル如ク一ハ之ヲ買フ者ノ身上ニ幾分カ變化ヲ來シタルト一ハ之ヲ賣ル者ノ地位幾分カ貴クナリシガ為メニテ其減少ハ社會ノ進歩ニ從フ文化ノ進運ナリ只[?]ノ區域ヲ限メタルモノト[illegible]

雜報

○授爵式　一昨十七日午前十時宮中に於て授爵式を行はせられたり其次第ハ例の如くなりしと

○開渠式　來る廿一日横須賀造船所大船渠開業式執行に付二品貞愛親王にも御沙汰を蒙られ同所へ出發せらるゝ由右に付宮內大書記官山口正定氏は其隨行を命せられたり但し雨天なれは順延の筈なり

○敕使　明二十日は兼て本紙に記せし如く岩倉贈太政大臣の一周年祭に付敕使として藤波侍從を差遣さるゝよし尤も右敕使は當日午前七時赤坂假居出門品川海晏寺へ赴き夫より祝田町岩倉邸へ參向の筈なりと云

○參內　嘉仁親王(明宮)には本日午前九時有樂町中山邸御出門青山御所へ參內遊さるゝよし

○華族に列せらる　正四位勳一等副島種臣、同伊地知正治、正四位勳二等吉井友實、從四位勳二等土方久元、從四位勳三等品川彌二郎の五君ハ一昨十七日特旨を以て華族に列せられ授爵の恩典あり

○議官增俸　大久保、柴原兩元老院議官は一昨十七日自今年俸四千圓下賜さる旨仰渡されたり

○海水浴行　伊藤宮內卿は一昨日午後六時新橋發の汽車にて神奈川縣下富岡れ海水浴場に赴きたり

○工部少輔　近頃の風說に工部省にては大輔の官あるも是は鐵道局長兼務にて重に該事務にのみ從ひ一般の事務に就き同卿れ輔佐ハ不充分なるとも爲れば今度新たに少輔の官を換任すると云ふ尤も被任者は多分元老院議官渡邊洪基君ならんとの噂あり

○撿閱使隨行　中部監軍部參謀步兵大佐長谷川好道、同步兵少佐山內長人二氏ハ東部撿閱監軍部長隨行を。戶山學校敎官步兵少佐[?]東節、士官學校騎兵生徒隊長騎兵少佐平佐是純、敎導團砲兵大隊長砲兵少佐櫻井重壽三氏は同部長屬員を。西部監軍部參謀步兵大佐岡武秉行、同步兵少佐井上光二氏ハ中部撿閱監軍部長隨行を。人員局騎兵課長騎兵少佐山縣[?]顯、士官學校步兵生徒隊長步兵少佐原口兼濟二氏は同部長屬員を。東部監軍部參謀步兵大佐土屋可成、同步兵少佐矢上義芳二氏と西部撿閱監軍部長隨行を。砲兵局人員課長兼砲兵會議議員砲兵少佐藤井義信、士官學校兵學敎官步兵少佐安東貞美、敎導團步兵大隊長步兵少佐井關正方三氏と同部長屬員を孰も去十四日陸軍省に於て仰付られたり

○札幌縣着　農商務大書記官管船局長塚原周造、工部大書記官電信局長石井忠亮の二氏は本月八日函館より札幌縣に着したりと

○裁判所巡視出張　[illegible]裁判所[illegible]を命せられたる司法權大書記官[illegible]二氏ハ[illegible]。同[illegible]權少書記官富田[illegible]二郎氏は[illegible]司法權大書記官大[illegible]事務總理の[illegible]は來[illegible]せる筈なりと